

平成30年度 鳳凰高等学校自己評価表

学校経営方針	教育基本法及び学校教育法を礎に、本学園の建学の精神である「 誠実にして社会に役立つ情操豊かな人間教育 」の実現を目指し、学校教育の使命達成に学園の総力を結集して教育成果の向上に取り組み、地域社会の信頼に応えとともに、開かれた学園として社会に貢献する。
学校教育目標	<ol style="list-style-type: none"> 1.建学の精神を基盤とした「礼儀」「規律」「節度」を体得させる躰教育を実践する。 2.調和した人格形成を目指して敬愛礼讓の心情と博愛の精神を育てる。 3.徳育・体育・知育の円滑なる発達をはかる。 4.知識よりも能力を、能力よりも品性を重んずる高貴な精神を育てる。 5.「明朗」「勤勉」「実践」の精神を育て、新世紀を担う有能な人材を育てる。 6.国際交流への理解を深め、グローバルな視野に立った思考力と行動力を備えた人材を育てる。
具現化目標	<ol style="list-style-type: none"> 1.勤勉・博愛の精神の体得と繊細・優雅な人材教育の徹底。 2.個性尊重・自主積極性の助長による文武両道の実現。 3.挨拶励行の推進と豊かな品性・礼節・躰教育の徹底。 4.集団活動による相互扶助・協調性の確立。 5.ICT教育による学力向上と各種検定資格・国家資格の取得。 6.寮・スクールバス等の学園施設と教育体制の有効活用による実践的教育の推進。

*100点満点

評価項目	具体項目	目標	具体的方策	評価	前年度	成果と課題
1 学校経営 全職員が共通の理念に立った学校経営の参画における教育的成果の評価						
(1)	学校経営方針	経営方針が学校内外に明確に示され、教職員間の相互理解と保護者・地域の支持に基づく教育活動を行う。	明示された中長期の学校経営ビジョンを全教職員が共有し教育実践に努める。	83	85	経営ビジョンの教職員共有とともに、機会あるごとに教育方針を生徒・保護者に発信・明示する必要がある。
			教育方針や育てたい生徒像を生徒・保護者・地域社会等に対して明確に示す。	75	75	
(2)	学校教育目標の具現化	学校の実態に即した目標が設定され、教職員間の共通理解のもとに、教育目標の具現化を図る。	建学の精神に則った適切な目標を設定する。	80	83	教育目標の具現化に向け、各部署で具体的に重点目標を設定し取り組んでいる。
			教育課題や生徒の実態を踏まえて、本年度の重点目標を設定し、具現化に努める。	80	80	
(3)	学年経営	学校目標に沿った学年目標による経営を行う。	学年目標の教員・生徒への浸透を図り、その目標達成のための教育活動を展開する。	80	80	定例学年部会で職員間の共通理解を図りながら諸活動に取り組んだ。統一的な指導について課題が残る。
			学年部会を月1回以上開き、目標達成状況、指導上の課題や学年行事等について職員間の共通理解を図り、統一的な指導を行う。	85	85	
(4)	学級経営	学校目標及び学年目標に沿った活気あふれる学級づくりを行う。	学校・学年目標に沿って、学級の実態に応じた学級目標を設定し、意欲的な学級経営を行う。	83	80	全体的には活気溢れる学級づくりに向け様々な工夫が見られた。定期的な面談や日誌などの取り組みも行われている。ただし、面談や情報発信については、格差も見られる。
			個別面談を学期に1回以上実施し、生徒の多面的理解を深める。	80	80	
			生徒が主体的・意欲的に活動する学級経営に努める。	83	83	
			学級通信を定期的に発行し、担任の熱意にあふれた情報発信を行う。	73	73	

(5)	学科経営	学科目標の具現化	学校目標及び学科目標に沿った学科づくりを行う。	学科目標の教員・生徒への浸透を図り、その目標達成のための教育活動を展開する。	83	83	学科目標の実現に向け様々な特色ある活動を行った。大学受験や国家試験にむけて創意工夫がみられた。ただし、生徒募集については今後の大きな課題となった。
				学科会議を月1回以上開き、目標の達成状況、指導上の課題や学科行事等について職員間の共通理解を図り、統一的な指導を行う。	88	88	
2 教育活動 教育活動全般における教育的成果の評価							
(1)	教育課程の編成	創意工夫された適切な教育課程の実施	学習指導要領の趣旨が生かされた特色ある教育課程を編成する。	各学科・コースの特性や個々の生徒の進路に適した教育課程を編成する。	85	88	各学科ともに工夫された特色ある教育課程が編成されている。
				教育課程の実効性や、教育目標の達成状況を定期的に検証する。	85	83	
(2)	教科指導	わかる授業の展開と工夫・改善	創意・工夫がなされた学習指導を行う。	各教科科目の年間指導計画(シラバス)を作成し、学習目的や学習方法を事前に生徒に説明する。	75	73	シラバスの充実が課題である。授業アンケートや研究授業をはじめ、教科ごとに授業力向上に向けた工夫した取り組みが必要である。
				教材研究や指導力の向上に努め、効果的な授業を行うために研究授業に積極的に参観したり、自らも研究授業を実施する。	80	78	
				わかり易い授業を推進するために、生徒による授業評価を定期的実施する。	83	78	
(3)	特別活動	ホームルーム	学校・学年の教育目標に沿った年間計画により、活発な活動を行う。	年間計画に基づいて、事前準備をよく行い、活発なホームルーム活動を実践する。	70	70	学年や学科において、ホームルーム活動に対し自主的な活動を推進するための計画や工夫が必要である。
		生徒会活動の充実	生徒の自主的・自発的な活動を推進する。	生徒の自主性を尊重し、積極的・意欲的に活動に参加させる。	78	75	
		学校行事の充実	生徒の実態に即した効果的な行事を企画運営する。	効果的な学校行事となるよう生徒・保護者の意見も参考にしながら常に工夫・改善を行う。	80	80	
(4)	生徒指導	基本的な生活習慣の「見届ける指導」	中途退学を未然に防ぐための生徒理解に務め、基本的な生活習慣の定着や交通マナーを遵守させる、きめ細やかな指導を行う。	欠席のない、はじめあるクラスづくりの実践。	78	78	カウンセリングや教育相談などは定期的に行っている。全体的には「基本的な生活習慣」は定着している。今年度の反省としては、「土曜日の欠席」「SNS上のトラブル」があげられる。
				服装・容儀の徹底指導。(特に頭髪・スカート丈)	80	80	
				挨拶の励行・時間厳守の浸透。(始業時間に授業がスタート)	85	88	
				交通安全指導の徹底(違反者・事故者ゼロを目標)	80	75	
				教育相談・健康相談・悩みの相談など多角的な生徒理解の推進	90	88	

(5)	進路指導	進路指導の充実	系統的・計画的な進路指導を行う	進路実現に向け、模擬試験や検定試験などを計画的に行う。	80	78	模試や検定など計画的に実施されている。進路ガイダンスや相談会など学校主体の行事は充実している。個別指導や体験を充実させたい。
				進路実現に向け、講演会や三者面談・卒業生との交流会などを行う。	78	75	
				職業観・職業意識を醸成するための効果的な現場実習を体験させる。	73	73	
(6)	人権教育	人権尊重に対する普遍的価値観の育成	人権尊重に関する様々な課題を認識させ解決のための実践力を身につけさせる。	日常の教育活動の過程において、人権尊重の精神を培うことにより、互いに助け合い協力しながら課題を解決しようとする態度を育成する。	83	85	学校行事や教育活動、寮生活などにおいて、協力の精神の育成に取り組んでいる。
(7)	部活動	部活動の活性化	部活動への参加を奨励し、活発な活動を行う。	部活動への積極的な参加を奨励し、学校生活の満足度を高めるとともに、学習との両立ができるよう支援する。	80	75	部活動への参加率は高くはないが、入部者の活動は充実している。学習との両立のための支援が今後の課題となっている。
				部活動を通して、達成感や挫折感等を共有する過程で、忍耐力及び協調の精神、コミュニケーション能力などのたくましい人間力を育む。	80	78	
(8)	ボランティア活動	ボランティア活動の充実	ボランティア精神の高揚を図る。	ボランティア情報を提供し、積極的・主体的な参加を奨励する。	73	68	年間を通じてボランティア活動の情報提供を行っているが、積極的参加は一部にとどまっている。日ごろの清掃等を通じて奉仕の心を育成したい。
				施設訪問や環境美化など、身近で取り組みやすい活動の機会を設定し、奉仕の心を育成する。	83	80	
(9)	資格取得	各種資格取得奨励	個に応じた指導の一環として、各種資格取得を奨励する。	英語検定、漢字検定、ワープロ検定等に挑戦することを奨励し、学習意欲の喚起につなげる。	73	70	学科や個人による格差が大きい。職員からの積極的な呼びかけや奨励も必要である。

3 組織運営 教育活動の円滑化、教師集団の協働性に関わる教育的成果の評価

(1)	校務分掌	適切な役割分担、組織的な活動と運営	各自の役割分担が明確であり、分担に応じて適切に校務を処理する。	年度の実態に応じ、各分掌の課題確認と分掌業務の改善に努める。	85	85	各分掌業務は適切に処理されている。部署間の連携を図りながら、点検・記録や報告を充実させたい。
				校務全体の円滑な推進のため各分掌間・学年・学科間の相互連携を図る。	83	83	
				分掌ごとの業務記録、資料の保存に努める。	80	78	
(2)	校内研修	研修体制の確立と実践	計画的・組織的に授業研究などを行う。	生徒の実態や本校の課題を踏まえ、全教職員による校内研修を年2回以上行う。	83	80	校内研修は計画的に実施できた。研究授業や公開授業をさらに充実させたい。研修内容を精選し、教科会や職員会議・情報機器による他職員への伝達の機会を設けたい。
				指導実践力の向上を図るため研究授業及びその授業研究を各教科とも年1回以上行う。	78	80	
				校外研修の受講者が、必要に応じてその内容を他の教職員に伝達する機会を設ける。	75	73	
(3)	現職教育	教職員の資質向上への取り組み	教育センター、各種教育研究会などの研修に積極的に参加する。	教育センター・私学協会・各教科教育研究会で開催される研修会に計画的・積極的に参加し、教職員の資質向上を図る。	80	80	可能な限り多くの職員の研修参加に努める。次年度はICT教育や新学習指導要領に向けた研修の推進を図る。

4 教育環境 学校の置かれている条件や環境に関わる教育的成果の評価							
(1)	学校環境整備	快適な生活環境の整備	日々の清掃活動を充実させ、美化意識を高めるとともに、節電・節水など省エネ運動にも取り組む。	日常の清掃活動に全校生徒、全教職員で積極的に取り組む。	88	88	点数には表れていないが、生徒の意識や行動が高まるに至っていないのが現状である。生徒に対する指導やクラスでの取り組みに改善が必要である。
				特別な清掃活動(大掃除・愛校作業など)を月1回以上実施する。	83	85	
				省エネ運動を推進し、電気・水道使用料を前年比減に努める。	88	85	
(2)	施設設備の管理	有効活用と安全管理	施設・設備の有効活用が図られ安全点検等の管理を適切に行う。	施設・設備の安全点検や補修を月1回以上行い、環境整備の保全に努める。	83	85	毎週末の査察において、全教職員で施設・設備の安全点検を実施している。老朽化した箇所も多いので丁寧に行う必要がある。
				日常の教育活動においては、施設・設備の安全運用を最優先とする。	88	88	
(3)	情報インフラの設備の充実	教育活動全般の情報化	パソコン等を使った校務処理を適切に行う。	パソコンによる校務処理を推進してデータの共有化を図り効率的な事務作業を行う。	90	85	導入された「iPad」や「校務支援システム」は活用されている。今後は研修等によりさらに効率化を図る。
				パソコン上の生徒情報等の管理の徹底を図る。諸帳簿類の保管管理体制を整え、適切に運用する。	90	88	
5 開かれた学校づくり							
(1)	保護者との連携	協力体制の確立	生徒に関する情報を相互に交換する。	保護者との個別面談を年1回以上行い、生徒の状況について学校と保護者が緊密に連絡や情報交換を行う。	78	78	特に遠隔地(県外)の保護者に対する情報発信が課題となっている。また、日ごろの保護者との連携およびPTA活動に対する呼びかけが必要である。
				PTA総会・地区PTA・保護者会などを活用し、生徒の状況について説明を行う機会を設定する。	78	75	
				自主的なPTA活動が活発に展開され、学校もその活動を積極的に支援する。	73	75	
				PTA関係の会議への参加率向上に努める。	70	70	
(2)	地域や関係機関との連携	学校間連携の充実	他校や異校種との必要に応じた効果的な連携を行う。	関係中学校や大学等との情報交換や連携に努める。	70	68	「南さつま飛び立て高校生事業」を始め地域との連携は充実している。さらに関係機関との連携の大切さを全職員が意識した取り組みが必要である。
				地域などからの苦情に対し、適切に対応できる体制を整備するとともに、改善をすみやかにを行う。	73	70	
(3)	学校情報の公開	ホームページの更新	ホームページを見やすくし、定期的更新を行う。	学校情報の積極的発信に努める。	68	68	広報部と連携しながら、各学科や部署からの積極的情報提供が必要である。

【総評】

【総評】

<p>評価の結果 (課題と問題点)</p>	<p>(1) 学校経営全般について 各学科における統一した指導や目標に沿った意欲的な学級経営については成果を上げることができた。教職員相互の連携・共通理解を深めるとともに、生徒・保護者に対する情報発信を強化する必要がある。</p>
	<p>(2) 教育活動全般について 授業ならびにホームルーム活動についての計画が不十分である。また、基本的な生活習慣の定着に向けて取り組んでいるが、欠席や服装容疑など生徒指導上の諸問題など改善の必要がある。</p>
	<p>(3) 組織運営全般について 各分掌業務は適切に処理されている。校内研修は計画的に実施できているが、校務などによる不在の教職員もいたため、複数回実施が求められる。</p>
	<p>(4) 教育環境全般について 日常の清掃活動は十分とはいえない。ICT教育の環境は整っているが、それを取り扱う教員の指導力に格差があり、生徒の学ぶ意欲が高まっていない。</p>
	<p>(5) 開かれた学校づくりについて 「南さつま飛び立て高校生事業」をはじめ、生徒の特別な活動については充実してきているが、外部への情報発信が未だ不足している。PTA総会や地区PTAなどの参加率向上も課題である。</p>
<p>今後の改善策</p>	<p>(1) 学校経営全般について それぞれの部署業務および学習活動の充実・強化を含め、生徒募集をはじめとする広報活動を強化する。</p>
	<p>(2) 教育活動全般について 授業については、シラバスの充実・研修活動をもとに、指導力の向上を図る。増加してきたSNS上の諸問題行動を未然に防ぐ日頃の取り組みを徹底する。</p>
	<p>(3) 組織運営について 校務全体の円滑な推進のため部署間の連携を強化させる必要がある。記録や報告についての整備をし、さらなる充実を図らなければならない。</p>
	<p>(4) 教育環境全般について PCの入れ替えや新システム導入が行われた。その活用について、研修を重ね、各教科においても教授法の相互研修に取り組む必要がある。</p>
	<p>(5) 開かれた学校づくりについて 各クラスや学科に加え各部署においてもICT機器もうまく活用し、校内でのできごとをタイムリーに発信していく。</p>